
山陽学園大学・山陽学園短期大学における IR の取り組み状況について

2023（令和5）年9月27日

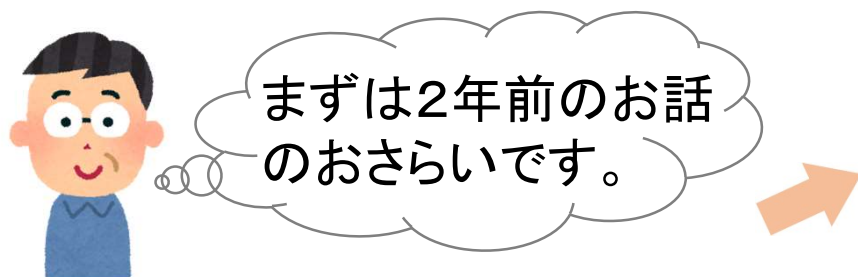
山陽学園大学・山陽学園短期大学
IR推進室長 小林 章人

With navigators



おしえ・まなぶ 匿名希望

1 大学におけるIRとは



Integrated Resort 統合型リゾート

国際会議場・展示施設などのMICE施設、ホテル、商業施設、アミューズメント施設などが一体になった複合観光集客施設

IR って何？ →

Investor Relations 投資家向け広報

企業が株主や投資家に対し、財務状況など投資の判断に必要な情報を提供していく活動全般

Institutional Research

訳語：機関研究、大学機関調査研究など

- 高等教育機関において、機関に関する情報の調査及び分析を実施する機能又は部門。
- 機関情報を一元的に収集、分析することで、機関が計画立案、政策形成、意思決定を円滑に行うことを可能とさせる。
- また、必要に応じて内外に対し機関情報の提供を行う。

※出典：教学マネジメント指針（2020.1.22 中央教育審議会大学分科会）用語解説

➡ 組織の形態や担当する業務は、大学等によって多種多様

2 山陽学園大学・短期大学における I R 推進室（その1）



山陽学園大学・短期大学のIR担当部局
＝IR推進室は、こんな組織です。

- 2016（H28）年4月に設置
- 従来の企画部を取り込む形（企画部は I R 推進室に属する部という位置づけ）
 - I R と企画の機能・業務を一体的に推進
- 現在は3名体制（ただし、全員が広報室と兼務）
- 主な役割は、科学的根拠に基づく（Evidence-based な）意思決定の支援
 - 執行部へ情報・分析結果を提供し、大学改革に活かしている。
 - F D ・ S D 研修会等を通じて、分析データを学部や部署にフィードバックし、教育内容や教育方法の改善に活用している。

3 山陽学園大学・短期大学におけるIR推進室（その2）



IR推進室の主な担当業務は次のとおり。
手広く、いろいろな仕事をしています。

- 大学改革のための各種データ収集・分析
- 各年度の事業計画等の策定とPDCAの推進
- FD・SD研修会の企画・実施
- 学生対象の各種アンケート調査の実施と結果分析
- GPA等教務データと他のデータを関連づけた調査・分析
- 教学IRによる教学マネジメントの支援
- テーマを設定したIRレポート（教職員向け）の作成・発信
 - 学修行動と学生生活へのコロナ禍の影響を探る！（2021）
 - 本学におけるオンライン授業の評価と課題(2022)
 - 新たな学生募集戦略の展開(2022) など



2年前より、
少し増えた
んだよね。

4 2年前の意気込みは怎么样了

【今後の取り組み】

- これまでの取り組みの継続と充実

- 大学改革のための各種データ収集・分析（充実）
- 学生を対象とする各種アンケート調査の実施及び結果の分析（継続）
- テーマを設定したIRレポート（学内教職員向け）の作成・発信（充実）

- 教学IRの分野に前向きにチャレンジ（これまでのデータ分析等の総合化の契機）

- 学修成果・教育成果の把握・可視化
- マクロ及びミクロな観点からの授業科目の検証・改善
- 授業評価アンケート等を活用し、授業への満足度や学生の学びの状況の可視化



2年前は、こんなことを言っていました。

より信頼されるIR推進室へ！



有言実行
となったの
でしょうか。

【意気込み】

- 学科教員とのコミュニケーションの強化とさらなる信頼関係の構築
- IR推進室職員のデータ分析等のスキルアップ
- アグレッシブな問題提起と話題提供による議論活性化のプロモーター

5 こんなことをしました（学科改革のサポート）

2024年度からの言語文化学科の「学びのアップデート」をサポートしました。



具体的には、①企業の進出先等の8割以上がアジアであること、②学科入学者のアジアへの関心は高いこと等をデータで示すとともに、新たなカリキュラムの体系案も提案しました。

アジアに関する学びが充実！アジアに強い学科へ

岡山县内企業の海外進出先、訪日外国人と在留外国人の国籍はいずれも8割以上がアジアであり、グローバル人材として活躍する場はアジアが主流になっています。アジアの言語や文化を学ぶことで、就職先の選択肢をはじめ将来の可能性が大きく広がります。

韓国関連科目

- ハングル I・II
- 中級ハングル
- 現代韓国論
- 朝鮮の歴史と文化



海外体験の機会が豊富

- 異文化理解実習
 - 短期語学研修
 - 長期留学
 - 海外インターンシップ
 - 日本語教育実習
- ※助成金制度も充実



アジア関連科目

- アジアの英語
- 現代中国論
- 現代アジア事情
- アジアの地域と社会

留学・研修先となる協定校

【韓国】漢城大学校、湖西大学校 など
【中国】瀋陽大学
【台湾】中華大学、国立屏東大学、大葉大学 など
【ベトナム】ズイタン大学

アジア・英語・日本のゆるやかな3コース制へ

これまでの日本・アジアコースからアジアコースが独立。ゆるやかな3コース制となります。

コア
科目
群

日本・アジアコース

英語コース

2024年度

コア
科目
群

異文化理解
日本文化

アジアコース

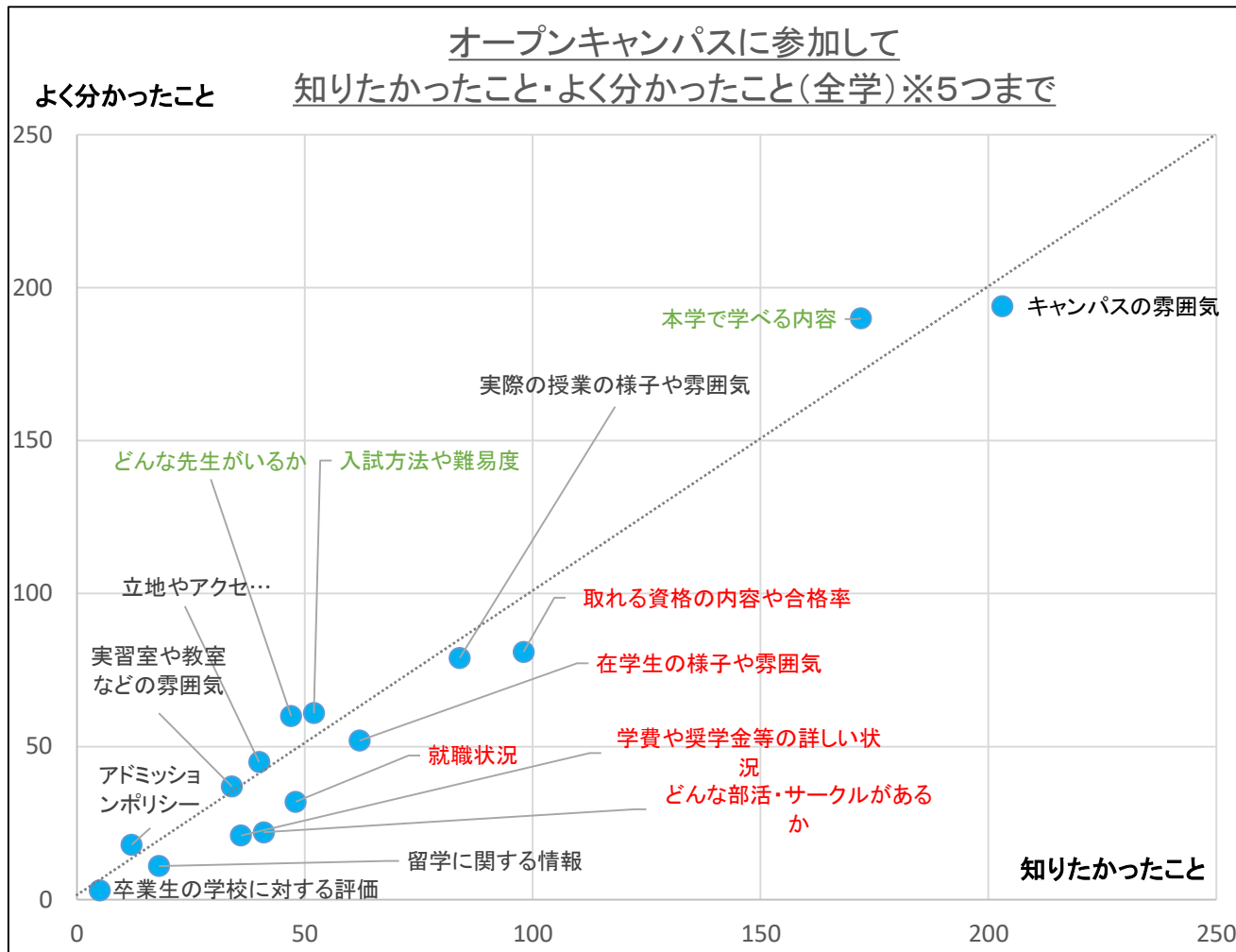
英語コース

日本コース

6 こんなこともしました（学生データの分析①）



- 毎年度、全ての新生を対象として「入学時アンケート」を実施しています。
- このグラフは、本学のオープンキャンパス(OC)に参加した新生の意見から、OCで「知りたかったこと」と「よく分かったこと」の相関を示したものです。



新生の
声でみると、
OCは概ね
満足して
もらえて
るよう
ですね。

でもね.....
OC参加者で入学
しなかった人た
ちの声は含
まれて
いないん
ですよ
ね。気を
付けな
いとい
けないな。



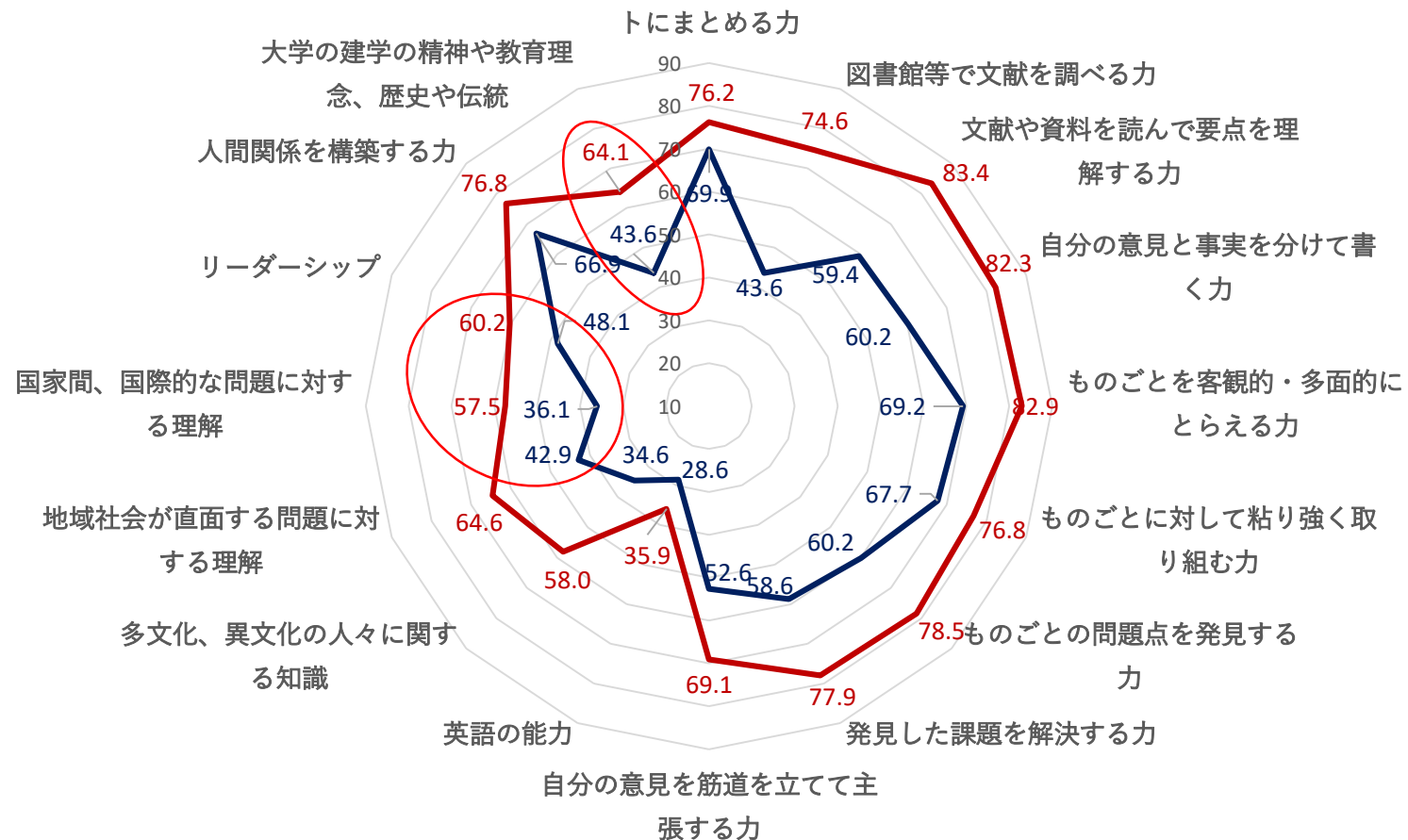
7 こんなこともしました（学生データの分析②）



毎年度、全ての在学学生を対象として実施している「学修行動及びキャンパスライフ調査」の回答から卒業生の回答を抽出してグラフ化したものです。

卒業生の成長実感（大学・短大全体）

授業の重要なポイントをノートにまとめる力

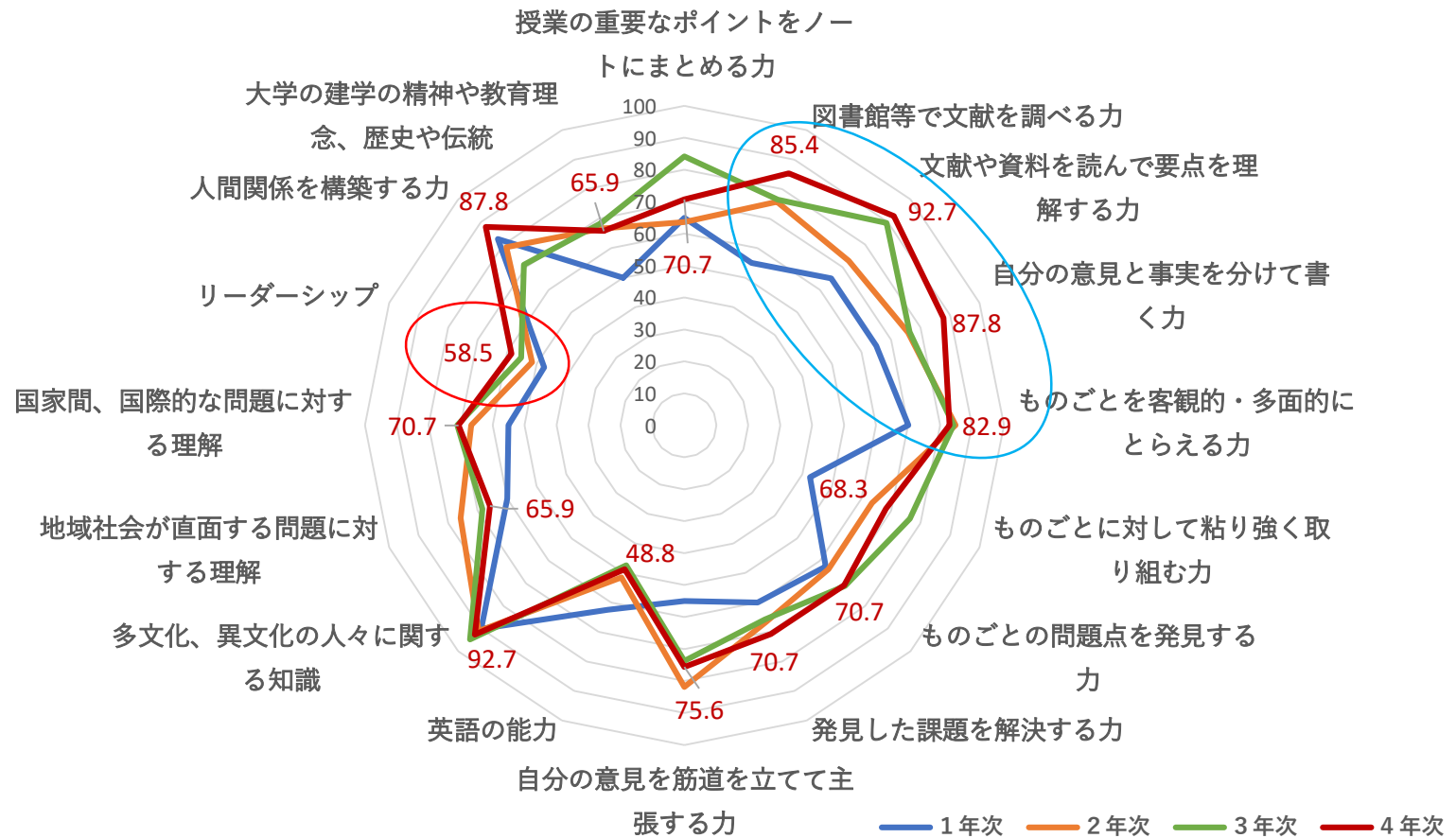


8 こんなこともできました（学生データの分析③）



2018年度から毎年度実施しているので、卒業生については1年次からの回答がストックされています。このため、コホート分析（同一集団の動向の分析）ができるようになりました。

卒業生の成長実感（大学・A学科）

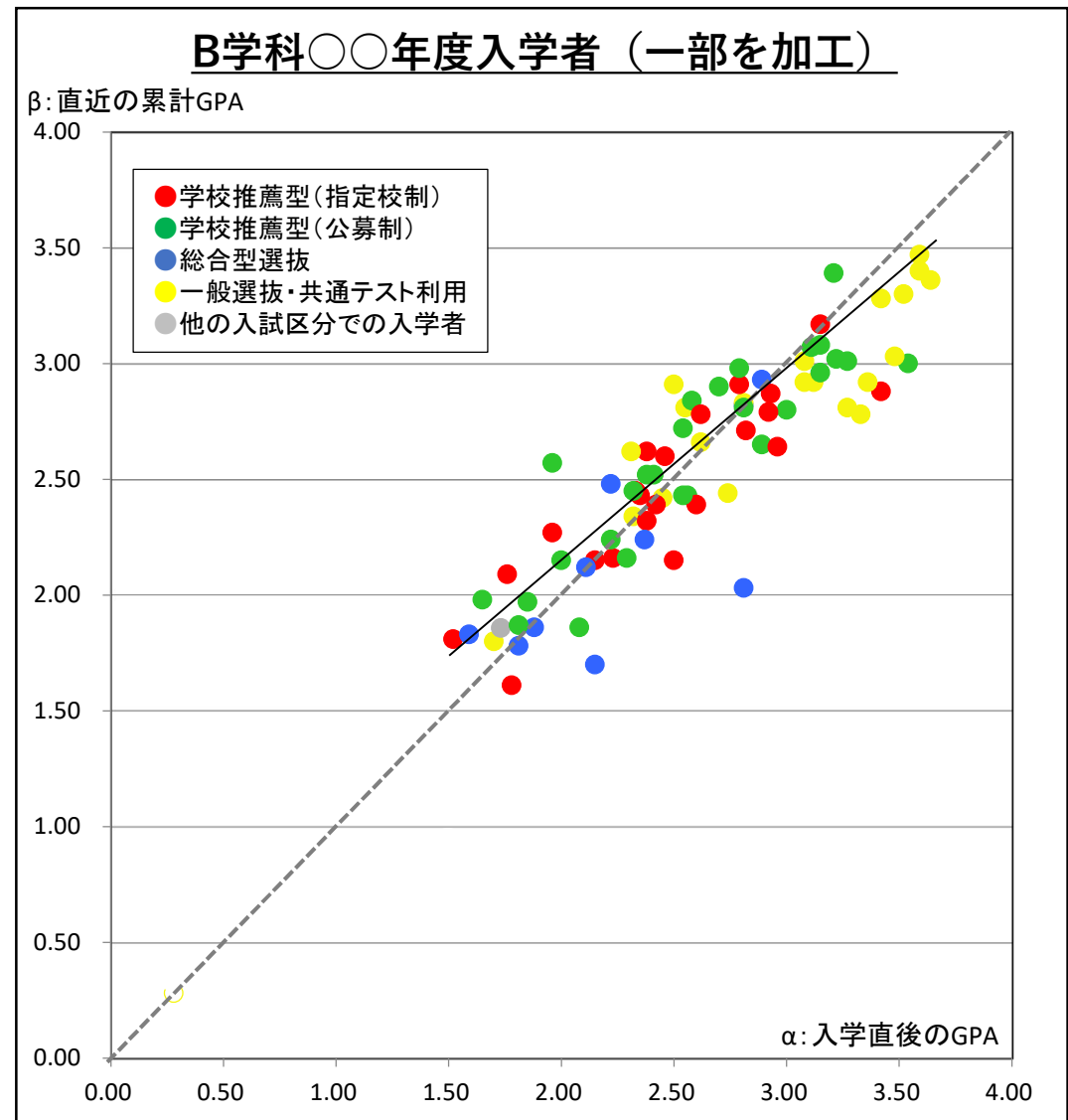


9 こんなこともやってみました（教学IRの新たなアプローチ）



教学IRとして、新たな分析方法の導入を検討しています。

- 横軸を入学直後のGPA（ α ）、縦軸を直近の累計GPA（ β ）とし、各学生の状況をプロットすることで、学生のGPAの変化を「見える化」したもの。
- 他の学科をみても、一般的に、 α と β には、強い正の相関が見られる。（相関係数 8程度）
- 点線より上の学生（ $\beta > \alpha$ ）は成績が向上、実線（近似曲線）より上の学生は、このコホートの平均モデルと比べ、成績が向上していると言える。
- また、GPAデータと入試データを連動させることで、入試区分ごとのGPAの分布と変動も「見える化」している。



10 2年間での成果と言えること（その1）



- 「2022年度学修行動及びキャンパスライフ調査」では、回答率が、大学83.5%、短大86.9%、全学84.6%。**安定的に高い回答率を確保**できています。
- もちろん、これは学科の先生方のご協力があることです。
- また、FD・SD研修で学生対象のアンケートの結果を説明した際に、多くの先生方から「**この内容をさらに分析して、学科の運営に生かしたい**」といった感想をいただいたことが、とてもうれしかったです。
- また、調査を積み重ねた結果、**コホート分析**もできるようになりました。

1 1 2 年間での成果と言えること（その2）



- GPAのデータと入試関係データの連携など、学生データの一元化やデータ分析の統合に向けた取り組みも進みつつあります。
- 教学IRの分野で、新たなアプローチによる分析・可視化の取り組みをスタートできたことも、大きな前進だと思っています。



- データ分析スキルも、少しずつ向上しています。
- データ集計サポートや散布図の自動作成を行うExcelのマクロ(VBA)も自己開発しました。

※VBA＝Visual Basic for Applications



- マクロの開発は、生成型AI(今回はChatGPT)に助けられました。

12 まとめに代えて（その1・今、気になっていること）



- でも、調査結果がストックされ、他のデータとの連携もできるようになって選択肢がすごく増えたので、逆に何を分析すれば良いのか迷ってしまいます。
- それに、アンケートに回答してくれた多くの学生のことを思うと、もっともっとデータを活用したいです。
- 例えば、調査結果をデータベース化して共有し、学科の先生がWebでアクセスできれば良いのに、とも思います。
- また、入学時アンケートのOCの評価のように、そのデータの特性を見極める目を養うようなスキルアップも必要だと思います。

13 まとめに代えて（その2・今後の方向と意気込み）



- 「データありき」から「**目的意識をもったデータ分析**」へシフトする段階になったのかもしれないね。
- データ分析をIR推進室だけで行うことは不可能。IR推進室は1次データの加工と分析の基本ノウハウの提供、個別の分析は学科等で行うといった**役割分担も必要**だと思います。
- また、**教学IRの分野の充実**は大きな課題です。今後、**ディプロマポリシーの達成度の可視化**が求められると思うので、その手法を考えたいと思います。



いろいろと課題はありますが、**信頼されるIR推進室**という目標に向けて頑張りましょう。

はい！
スキルアップしながら頑張り
ます。

